

デジタル画像の利用促進

宇陀則彦(図書館情報メディア系), 和氣愛仁(人文社会系)
真中孝行, 後宮優子, 田村香代子, 西彩花(附属図書館)

背景と目的

近年、デジタルアーカイブ構築を目的としたコンテンツマネジメントシステム(CMS)や、IIIFのような画像を共有するための標準的な枠組みの普及により、デジタルアーカイブの構築とデータ連携が加速している。しかしながら、既存ウェブサイトとの統合やOPACシステムとの連携、あるいはシステム運用の持続可能性など、考えるべき点も多い。本研究は附属図書館が有するデジタル画像の利用促進を目指し、IIIFプラットフォームを構築し、図書館サービスの運用可能性を探ることを目的とする。

IIIFとは

IIIF(International Image Interoperability Framework「トリプルアイエフ」)とは、画像へのアクセスを標準化し相互運用性を確保するための国際的なコミュニティ活動である。その成果として、画像へのアクセス方式を定めるIIIF Image API、書籍などの構造を定めるIIIF Presentation API、検索を用いたアクセス方式を定めるIIIF Search API、認証つきアクセスのためのワークフローを定めるIIIF Authentication APIの4つのAPIが公開されている。APIの仕様が公開されているため、APIに準拠したソフトウェアを誰でも自由に開発することができ、さらにその成果をオープンソースとして公開することも可能である。こうしてIIIFに対応したオープンソースソフトウェアがいくつも生まれ、それらがIIIFの使い勝手を向上させることで、さらにユーザが集まるという好循環が働いている。(以上、人文学オープンデータ共同利用センターのサイト <http://codh.rois.ac.jp/iiif/> より一部修正の上引用)

成果

昨年度試験的に構築したIIIF対応デジタルアーカイブ管理システムについて、セキュリティ保持および運用コストの側面から再検討を行った。その結果、これまでCMSとしてDrupalを用いてきたことから方針を転換し、今後はOmeka Sによりデジタルアーカイブの構築を行うこととした。これは、Drupal自体のバージョンアップへの追従が当初の想定以上に高コストであり、独自に開発したIIIFマニフェスト生成モジュールを継続的にメンテナンスしていくことが困難であることが大きな理由である。その点、デジタルアーカイブ専用設計されたOmeka Sは開発コミュニティの成果を利用することがよりたやすい。また、日本国内におけるOmeka Sの活用事例も増えてきており、その点で情報の収集もしやすくなってきている。次年度以降実際にOmeka Sを利用したデジタルアーカイブを構築し、附属図書館が所蔵する貴重書画像をIIIFに対応した形で公開していく。

新しい図書館サービス(構想)

- ・ユビキタスコレクション
図書館が巨大なIIIF画像空間から利用者のためにコレクション形成を行うサービス
- ・相互援用型コレクションサービス
(Mutual Invoked Collection Service MICS(ミックス))
利用者のIIIFコレクションと比較し、足りない画像を自動的に補うサービス